

何気なく読んだ文章がある。以下に紹介する。「ありがとう」という言葉を口癖のように唱えていると、自分でも信じられないような出来事が起き、健康ばかりか運命までも好転していくというものである。

「ありがとう」という言葉の力を調べるために、次のような実験を行いました。

2つのペットボトルを準備し、一つには「ありがとう」、もう一つには「ばかやろう」と書いて東京都の水道水を入れます。一晩置いた水を凍らせて結晶を撮影すると、「ありがとう」と書いた水道水だけに、宝石のような美しい結晶ができるのです。

一方の「ばかやろう」と書かれたほうは、かわいそうなくらい無残に変形します。いろいろな水を使って実験を繰り返しましたが、結果は一緒でした。

人間の体は70%が水でできています。だとすれば、「ありがとう」の言葉をたくさん投げかければ、この実験と同じように体内の血液も変わり、健康を維持できるのではないか。私は次にそのように仮定しました。そして実証していきました。

「ありがとう」を唱え続けたがん患者からがん細胞が消えたり、医者から失明を宣告された人からいつのまにか目の病が癒えていたり、手術が必要と言われていた子供さんの心臓の穴が塞がったり、各地で信じられないような奇跡が次々と起きたのです。

ある講演会での話です。末期がんと診断された人が、会場の前に出て、「私は生き延びたいから、ありがとうの声をかけてほしい」と全員に呼びかけました。そこで会場に集まった200人が1分間100回、その人に合計2万回のありがとうを浴びせました。ありがとうを言うみんなの目からは涙が溢れ、会場は何とも言えない温かい雰囲気になりました。そして3日後の精密検査で、その人の体からがん細胞が消えた、という報告が届きました。

読み終わって「これか!」と思った。私が探し求めていたものである。人間修行のために、常々、名言などに出会うとメモをして書き留めるようにしてきた。だが、何か違和感を感じていた。また、日頃から先生方に感謝はしているのだが、どうもしっくりこない。

そこで考えてみた。中学校で教頭をやっているときや小学校で校長をやっているときには、先生方が毎週提出する「週案」に赤ペンで感謝の気持ちを一人一人に書いていた。一番多いフレーズが「ありがとうございます」である。

高校には、この週案がない。全員の先生方一人一人に、確実に感謝の気持ちを伝える機会がなかったのである。にもかかわらず、いつのまにか「こうしてほしい」「こうしたらもっといいのではないか」ということを直接伝えていた。あるいは発議書等にかけていた。昔、「思っているだけではだめなんだ。行動しなければ何も伝わらない」とお世話になった校長先生に怒られたことがある。

私は感謝の気持ちを先生方に伝えていないことによりやく気が付いた。しっくりこない原因がこれだった。また、いつのまにか特別な名言に出会えることを期待するようになっていたのかもしれない。しかし、それも違っていた。名言は、すぐ身近にあるものだった。「ありがとう」だったのである。

毎度のことではあるが、気付くのが遅すぎる。1年半以上もかかってしまった。先生方には申し訳ないことをした。これから必死に挽回しようと思う。そして、可能であれば、「ありがとう」の力で、身近にいる大切な人に奇跡を起こしたい。